



特別
A22
8895



特

門心 22
號 8895
政 安

四 年 九 月 新 雕

橫山保三譯

魯敏遜漂行紀略



復華書屋藏



魯敏遜漂行紀略序

橫山保三翻魯敏遜原書本而成余謂敏遜數
 經歷艱虞流落窮島顛沛委頓阨窮不憚憂
 悴僅定即墾闢修葺經紀家事整理生意能
 堪二十八年之久無甚憂悶之色其才幹之
 茂有大卓越於尋常者凡人而有此器局何
 事不可為乎豈我洋人長育小兒每以此書
 為訓蒙之階也保三江都人邃國學而善屬

國文今見其所翻流麗可喜頗有今昔物語
之風非余輩妄冒漢人口吻以成一種不可
解之語之比也譬之猶魯敏遜之於尋常難
民其智相去不唯三十里豈可不愧羞而省
察哉或曰魯敏遜本無其人出名家達尼兒
假託之筆

安政四年丁巳九月美作箕作阮甫虔儒



為後多を世の如く流麗可
いよとてしるすやれき
小彼等もよみきん
堀
之中とてさるく
石倚んるるの
以きくはるる

其の如く〜
 核の坐落の日の祀を畫す
 のくまの玉のたのしみ
 へ海へちるふをたのしみ
 へり〜の白鹿をま〜
 くるるあり〜と〜
 ありあり〜の業〜

つま〜西洋の玉〜
 くるる〜海へちる〜
 へり〜の玉たのしみ物
 あり〜ありありありと
 あり〜ありありありと
 あり〜ありありありと
 あり〜ありありありと

BEKNOPTE
LEVENSGESCHIEDENIS
VAN
ROBINSON CRUSOE.



及崖川寛摹

あはれしきもの
の学おしむるは
一二月十日
天城宗人後

魯敏遜漂行紀略

横山保三由清譯



ロビンソン クリユスー ヨルク 英吉利国 の貴族 ヨシアルイヘネチ 此人と

ほ クビアリキ 行 クビアリキ せん クビアリキ の企 クビアリキ あり クビアリキ たり クビアリキ 又 クビアリキ 其 クビアリキ の クビアリキ 事 クビアリキ あり クビアリキ たり

て クビアリキ 側 クビアリキ を クビアリキ せ クビアリキ り クビアリキ 又 クビアリキ び クビアリキ び クビアリキ 汝 クビアリキ 此 クビアリキ 國 クビアリキ と クビアリキ 離 クビアリキ せ クビアリキ り クビアリキ 又 クビアリキ 其 クビアリキ の クビアリキ 事 クビアリキ あり クビアリキ たり

思 クビアリキ へ クビアリキ 又 クビアリキ 其 クビアリキ の クビアリキ 事 クビアリキ あり クビアリキ たり クビアリキ 又 クビアリキ 其 クビアリキ の クビアリキ 事 クビアリキ あり クビアリキ たり

う クビアリキ ち クビアリキ 又 クビアリキ 其 クビアリキ の クビアリキ 事 クビアリキ あり クビアリキ たり クビアリキ 又 クビアリキ 其 クビアリキ の クビアリキ 事 クビアリキ あり クビアリキ たり

ふ クビアリキ ち クビアリキ 又 クビアリキ 其 クビアリキ の クビアリキ 事 クビアリキ あり クビアリキ たり クビアリキ 又 クビアリキ 其 クビアリキ の クビアリキ 事 クビアリキ あり クビアリキ たり



原本一章ごとの挿画ありて所謂出像の稗史あり今その一二とてふ
 あり其他を略す即ち五章と七章の二あり



あがきいさめこころなりかくいさねそのち魯敏遜扶トモダチ

兎ル英吉利国の地名とありしききりある朋友トモダチふ

あまひけりそはるる魯敏遜が父の船より蘭頓ロンドン英吉利国

都府の名まゆゑんとする者なり其人魯敏遜より路ミチのほりあま

わのいハる為んれりもふ旅立せよとせよめいひり

魯敏遜ロビンソンが父のいし嫉イナよとありあうたれがとた志を

変め父の練イサりも考へび母の致ナゲおも思ひびり千六

百五十一年我慶安四年の九月一日蘭頓ロンドンより旅立ちけり

此地ツキの到るは後閩ギョイナ呼亜弗利加洲の國名よりこたなる船の

甲必丹シボタンと交りては人魯敏遜小高シヨトウひの所得シヨトウをともり

そののるはバ林カシコともは彼カシコよりゆけといひけり

勸スめよしとていしてが親族より書籍ツミのさうにそへ

賜ユガ子りあせりる金ユガ子四十ポンドステルリングと甲必丹より渡して

細貸ユモモをも買取りけり

閩呼アキウドよりいりつてあて魯敏遜ハ商人と申ぬ然シむじぶら

ふ甲必丹シボタンは地アキウドはばあていくほりもさくさうりけり

魯敏遜カブリーヤ福島より海へんとし、時ふ甲必丹の妻より
 貯への金ユガ子二百片ヒラを預け、是よりこれ魯敏遜のける船都
 児格ル名目の賊船より掠奪せしめ魯敏遜ハ生捕しれく模
 璉レ名地より属するサラサレ名地とて海濱の街より送しれ奴僕と
 せしれ、魯敏遜いこのぬ奴僕ウラガリの苦厄を免ヌうべんと志い
 ころころにある時主人の命イヒシケまゝ魚釣りおろしこれと
 よおれり、船ハシラ子よりて道ノカを去るころ、葡萄牙ポルトガル名国の船よ
 あひて伯西兒ブラシリー南米利堅南米利堅洲洲の国名より送しれ、是より寡婦

一書と給り、預け置る、金とよりよ終りぬ、よ義
 莊園を買とりけり
 魯敏遜伯西兒スミヒ土着して四年がうあり、ちあるとよ
 友とゆる高賞アキウトとて、また奴婢を買とる、が有り、亞弗利
 加モテルモノド一ゆのんとて、あのが資財田園をばよく心知る人よ
 ち、あゝく、り、れ途ミナ中ナより、死せうとき、ば、め、莊
 園とて、吾とて、地より送る、し、甲必丹、子、贈き、と、遺カキ
 書オキとて、一、ち、ち、り、さ、て、船、お、し、十一日、と、り、り、り、り、

あつた風はあつた風を危ふからしめりて船中の
人の遊艇ハシフチよりうりうりと助のこゝろを求む。ほどきざし
は向は顛倒クツガハきけり。皆海中へ落入りしけり。
魯敏遜ハあつた風を水練オヨギより長タケくうりて波の勢い
らぶて碇をくちあきまはせよ。あつた風を
呼吸イキを保ちたぐふ多く水そのこゝろを死シニりつ
とつてき。ほどきざし。あつた風をくちあきまはせよ。陸地ツチを見
つけしめり。あつた風をいしと勢力イキホヒを激イまりしれどあつた風

波のこゝろにあつた風を危イハホふからしめりて船中の
て碇をくちあきまはせよ。あつた風をいしと勢力イキホヒを激イまりしれどあつた風
とつてき。ほどきざし。あつた風をくちあきまはせよ。陸地ツチを見
つけしめり。あつた風をいしと勢力イキホヒを激イまりしれどあつた風
らぶて碇をくちあきまはせよ。あつた風を
呼吸イキを保ちたぐふ多く水そのこゝろを死シニりつ
とつてき。ほどきざし。あつた風をくちあきまはせよ。陸地ツチを見
つけしめり。あつた風をいしと勢力イキホヒを激イまりしれどあつた風

損傷フコナハレ

深い岩窟にありておそろしき獣をとりてあそびつるにせ
 まのりと樹上よりいづれのぼりたりておそろしきあそびの
 日よみ泉と果實とを尋ねてはくはくしつるのよみと海
 上ナギ和らむにつるもさあはるるを身ナギに艱苦とすのぞ
 ちりりの物をとらんとすもさあはるるを身ナギに艱苦とすのぞ
 らるるの物ととらんとすもさあはるるを身ナギに艱苦とすのぞ
 本どもと集めて筏ナギをりてくはくしつるのよみと海
 上ナギ和らむにつるもさあはるるを身ナギに艱苦とすのぞ

それにほろりたるあそびハ強心薬ナギ少くと酒二十四ナギ罍ナギ麻
 縄ナギ下より才三の帆被敷ナギ被のナギこゝろひ及びナギ番ナギ匠ナギ小
 屋ナギにナギ鉄釘三袋ナギ圓鑽一斧十二砒石一顆ナギ鏡ナギ挺三鏡ナギ丸
 二桶鉄炮七挺獵鏡一挺銃藥ナギ鉛ナギもナギ他ナギ砂糖ナギを造り
 焼酒四桶焼酒一桶白砂糖と新粉と入るるナギ箱を取
 けりしは是を筏ナギよつと海ナギにナギさしてある。岩脚を
 ころころとさしてありて此物とを貯へおくるナギふ
 屋とナギ学ナギをナギしてけり

海にありし舟ありて手銃二挺馬銃二挺鉛一袋鏽くさる。劔
二口銃茶三桶と見ゆらう。其後麻繩と板とを坊らうけ
きば月面と凌ぶ獸の跡とさけんぐらふより住家造
らんの支度とぞしうけるまがら坊らうしうとら
ちりしる。柵と二行ありて出入するに梯と用ひしれふ
ゆらで岩中に穴をほらうその坊らうる土や石と此柵
ありしきとくく。窓ある家のまへに土壁を作らまへし
あり。杭あり。千六百五十六年。我明曆二年。九月三十日。此島

小刻きると削つて置たり。又椰子樹の葉とくそ木と骨と
して日傘と造る。くそ木と骨と

此住家をなや。平穩あり。せんとして芝草あり。雲のいし。土
垣と築ふ小屋を作らう。坊らうげ地とほらう。まがらう。
ほらう。柵と土垣とあふ。あふ。あふ。い。け。ぬ。道と坊らう。
こふ戸とひく。出口と造る。船より持来りし板と食
卓椅子と。くそ木と。くそ木と。くそ木と。あう。つ。く。事。
ども。從。今。より。の。ち。の。も。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。と。そ。日。記。と。し。と。

とていふところあり 物どもよ外よあそび鳥を射す捕らる
ころは 野羊ヤギとつげく又ある磯辺より卵六十疋ども
らるる 蠟ウニカメ龜とてく調り 喰ひくたそけ味り
らぬこのりきり

みえつげあふる 野羊と捕らるる飼ちりくふい
ほむちき 蕃殖ウニハリといふれりりなるれバ時それを
ころりく食ちあそれやの料の串クシきよとのく其皮
とバ乾カワり貯る衣服の料なり けりある時裏よ入置

穀物と地ソチよるばり ころり 二三月の及位木の周ユヅリ
ふ小麦大麦采ちをオヒイテ生出たり 日記カキニキも墨汁やあ
あくらりあそれハ今ハいそり ぶ事さるでハ
あふるころり 縫工ヌエヒの業をばあそり衣服をば
事ころぬやうり なるまけり
あこのこ道ミチを ありふるた一日客アルヒカ加阿カオ橙ダイダイ栲カシ椽ノ梨リンゴ椽ノ
まといふるよ 葡萄ブドウを多く生くる 谷とらけきを
ころり 別業ナリドコロとてころり 蒲ヨモギ萄ドウハ木キのけ日光よ乾カりて冬の

貯へ〜小麦米などマキオホ蒔生〜多く穀物と貯らるる
ハ神のつれよのる物とと場へミウツクシ恩恵と〜ドけらる
つ籠を造りてそれを入るありある時鸚鵡多ふ林よ
おびくもの雛と〜それモ、イフは説話を教へらる
ゆ〜ある途ゆ〜子も〜カメルシカ駝羊の乳と〜け頭ツビり縄
〜のけ〜る園園り引もてなかりぬふ日などハの鸚
鵡はお〜を教ふる〜
〜の〜の〜と〜し時のむびハ〜

〜ら〜きてげあむハ嘗よ〜側を〜居り又銅を〜二七
の猫ハ〜し撥〜と〜み〜い〜る野羊ヤギより乳と
乾酪とを〜よ〜〜ウエ乳も死〜のりしこの曠アラ
野〜ハ〜有〜ケヒモノ食卓と納〜持〜カかま
る時ハ〜日傘〜カの手銃〜カ肩〜カみ斧と鋸とを
腰〜〜
魯敏遜ある日言ふおよのぼり〜海づらき〜後〜
小きハ舟のび〜を〜つ〜中よりむ〜つ〜男オラ

ウエルデン

まや二十らまよありぬーぬせいよむらうしほくく
の年月恙なく存命をまよつけても毎年此島に居る日
をまよける日と祝つ神の恵をまよあむぶくら

半時岩と岩との間よりおろれも船をまよつけく弗羅
獨もまよ筏よのまよく見ると人おろもおくても

犬一足甲板のまよありたりしり蒸餅一つ投与へるを飢
くまをぬまてまよびくくいぐれバ又新水をのまよめくるにけ

犬いもく馴付たり此船ハ是班牙國の船をまよまよれ造ら

りまよてーまよきてまよは一つ代櫃と見出るとふらゆりまよ
の夙領紐釦白ふ手巾細密する利諾布大小の襦衣衣服まよ
履一足とまよりまよ

狩りの船中よりまよ舟の物まよとけんとて弗羅獨まよまよ
鸚鵡と敷目の種まよといまよ刺舟まよとけりまよきて船の中

まよるまよぬくまよのまよた黄金數片と種々の寶物まよ入
くまよ管焼酒二桶砂糖まよ造るまよ焼酒香氣あま酒火薬

まよとけりまよのまよまよまよの伯西見まよ莊園

と申し申すといと輕卒カラクシク由棄置クるのありこの莊園マシも
と申すといふナにケハフの目やシるハはウキキあハあシるハ
海ノとシるハ思ハ意ナちシしトもシ悔ミるハ也
又ハ多クハ手銃馬銃及び木盤ト果實と清くも壺ト成見

出シるハ里トハ弗廉獨魯敏遜トハ一のハもシとシるハ也
あハ學事不志ありト魯敏遜ガいハ教ムるハと理解スる
とシるハ奇トとシるハ喜ビつトづツのハもシとシるハ也
とシるハ魯敏遜ノいハ地トもシるハ火菜とシるハ也
とシるハ也

これハ如此カクして放ツつリのハと教くハもシるハ也
てハ考ルるハ用有るハ斧トもシるハ也
語ト會得やハもシるハ也
目トもシるハ也

さてハ見ルるハ要用のハもシるハ也
帰ルるハ也
弗廉獨力とシるハ魯敏遜ト助ケ是ト再ビ冷シるハ也
よシるハ也

信^{ヤカ}なる志をいへんてみれの生^{フルサト}國を海^カへんことを欲^{ホリ}するも
と君よりいへば君もまよゆるあはれはあちうがへる
らんことを思ふべしこころはれは其の志は感^カへし
いよく朋友の思ひをいへる

島より帰るとして此^{モハシ}の諸財を弗^フ羅^ロ獨^{トク}に令^{シテ}運^{ハコ}
輸^ツしむる貯蓄^{モノオキ}所より入^ルあふむる海^{ツカシ}路^カの疲^{ヤス}を休息^カめて
他^タ日^ヒの固^カ圍^カみひりまを狩^カりむるもやむるに射^シてとる
なりあは弗^フ羅^ロ獨^{トク}をたてようこの心の忠^チ實^{ジツ}をいへる

ひまよりいへる運命のつとめを忘^ワさ日^ヒ毎^ニ夕^{タツ}べのうむる
用^{ヨウ}をいへるもあつたまひくはちうてあつた
んとしつとつあつたことなるなり
魯敏遜^{ロミンソン}船中^{センチュウ}に衣服^{キヨフホ}を着^キ装^{ソウ}いへるを弗^フ羅^ロ獨^{トク}
獨^{ダク}見^ミるもあつたあつた結^{ムスブ}構^{カマ}る衣裳^{シヤウソウ}の如^{ごと}
とあつたあつた魯敏遜^{ロミンソン}弗^フ羅^ロ獨^{トク}と悦^エむ人^{ヒト}と水^{ミヅ}
夫^{ボト}の衣服^{キヨフホ}とあつたあつたバ結^{ムスブ}とあつたあつたのあつたあ
なりあはるのこころなるあつたの刻^{クリ}舟^{フネ}此^{ココ}島^{シマ}をたつたあ

とつてけく弗藤獨ふまら戦ふごよ用意せき終るる候なり
野人トノフタリ二人陸より上り磯辺より白人タキひとりも並そ
球求ありけりけしめふ魯敏遜その者を助けたりが
後家へ帰せりなり

さて何國の者を伺ひければイスパニヤ是班牙の者なり
この家なりとの野人ら彼者をとてよた怖りふあ
為せんとて歸り來るとして魯敏遜ありげし隠きて手
銃と放ちりれば野人ら驚き退きしる劍舟クリフネのつ

く逃去り魯敏遜これと逐く舟ありしと海濱より
けふそそ縛らけり候し死に物ある男ありけり弗
藤獨をよけり候し候し父ありしといはれ助けり
しり是班牙人ともふあめて此島よりまゝ二人の後者バサを
けりしを候ひて蒸餾米あり候しとてきて弗藤獨及
び又し是班牙人と引つきて候し物あり候しけり
魯敏遜ありし海濱と道を通り候し此島より二里オキを沖
へ碇イカリ下せる船あり候し是は英吉利國の船とて名けり

この本國の船とすつて、表びへさるひをよめうす又あし
あまのうとあまのまふるぼるほるように船より小舟は手
としく縛る者三人のせき此海岸よこぶらせ陸
ありと送る者よのこるひのちりたハ魯敏遜ち
うらうと何者をもさるひもさる中一人こして林ハ
かのえゆる船ハ甲必丹ありきふ船中の人と林は後ば
騒ぶるを殺さんと欲するよるひもさるをさ
く魯敏遜ハ「^{イニ}けられとあうる本國へ歸る」めハのめ

^{フミヒト}水夫らとともく和順せめんといふもこと
こハ甲必丹あるにさる本國へ送るよる「^{ウハナヒ}承諾せしハ
魯敏遜手銃ととりよらひて林中より水夫の海へあるを待
て^オ侵り「^オ驚い」るハ水夫ら不意めふあひて「^{アハ}周章て
おどろい」て「^{トホシ}擄り」つよさうきて魯敏遜のもの
らひさく甲必丹ハ「^カ母を海へぬ此島はち」れハ魯敏遜が
信家と別に見ゆらるもおもを見さし又魯敏遜と迎
へて日よハ^{アイツ}號炮と放ちる若知せんといふも約「^カあうるれ

より魯敏遜ハ諸物と荷造ニツクをて船立の支度とあり又歸伏シツカヒする
一水夫らに信託するにて土地ありて与へらる
かくて二日三日ありて約しつゝ號炮アイブのしるせありて信託
せられ迎へてあるに互りしむるをてつゝ甲必丹は
船を指示してふおよはし有船を再生の恩人といふ
船をそしりしむるをて船をそしりしむる財寶ハ皆汝の物
なりといひて魯敏遜といふよりあつていふものなり魯敏遜は
島の支配を弗廉獨フレイダフの又よ海にありていふより水夫らよ

二〇五

いふよりいふより保續ソナギし術チダテとて野羊ヤギとて養ひ肥コヤし酪
乾酪とていふし法シカタを教へ蔭生マキオホとて穀類をて与へらる
魯敏遜此島にあること二十八年の後千六百八十六年 我貞享三年 九
月十九日ハ弗廉獨フナヂとて乗船して英吉利國イギリスに到着し
ていふに父母ハ既にいふよりいふより後見ウシロミありけり
者ハ財寶タカラをていふより魯敏遜は海にありて蘭頓ロンドン
府フルキトヒに到りて舊識フルキトヒありて甲必丹ハ再會しとていふに
して悦びて親睦シタシニありていふよりいふより此甲必丹は

西き者^{タシ}をて^シみ伯西^{ブラシリ}見^リる^ル莊園^{ウシヤウ}の税銀^{ウシヤウ}いと多^クう^クる^ルと^シ續
り^テ盡^スく^ル皆^レ淚^シし^キう^クり^テか^クて^シほ^クる^ル魯敏遜^{ロミンソン}ハ妻^メと^シ迎^ム
て^シ幸^ニ多^クう^クる^ルを^シて^シ二三^ニ來^リあ^リる^ル妻^メの^シあ^リる^ル後^ノ甥^シ也^ナ
とも^シあ^リて^シ再^ビび^テ彼^ノ島^ニよ^リり^テ暫^シ時^ヲを^シく^ルい^ハる^ルと^シあ^リり^テあ^リく^ル
英^イ吉^ギ利^リ國^スより^リり^テ歸^ルる^ルも^シあ^リる^ル其^ノ地^ヲと^シあ^リる^ルあ^リる^ル事^ヲ
う^クあ^リる^ル事^ヲ

附載

魯敏遜の事蹟と考るに原其人^{モト}あるはあ^リる^ル紐^ニ氏^ウ韻^ン府^ホ書^ス名^ナ
曰^ク千七百二三十年間^{我享保元}魯敏遜の名と籍^{カリ}諸種^{ウツダ}のロマン

正史^{マサシ}と^シ史^シと^シ稗史^{ヘイシ}と^シあ^リる^ル華飾^{カガシ}と^シま^シと^シて^シと^シ著^クる^ル海陸^{カイリク}非常^{ヘイジョウ}の患難^{ウヅナニ}と^シ説^ク
人意^{ニイ}中^{ナカ}あ^リる^ル鋪張^{ホウカウ}と^シ一^{ヒト}種^{シユ}の文^{モン}体^{テイ}と^シス^コット^ラランド^ノの^ノサル^ガス^ノ地^チと^シあ^リる^ル所^トなり
其由^{ナリ}と^シ起^ルる^ル始^メと^シ原^ニる^ルに^シ思^ハ可^ク齊^シ亞^ノ名^ナの^ノサル^ガス^ノ地^チと^シあ^リる^ル所^トなり
アレキサンデル^{アレキサンデル}セルキルク^{セルキルク}名^ナと^シあ^リる^ル人^トと^シあ^リる^ル人^トと^シあ^リる^ル人^トと^シあ^リる^ル人^ト
千六百八十年許^{ハカリ}の^ノ事^{コト}と^シあ^リる^ル所^トなり

生きあ^リる^ル所^トなり^テ幼^{イトケナキ}時^{トキ}より^テ好^キで^テ海^{カイ}事^{コト}に^シ練^{レン}達^{ダツ}し^テ水^{スイ}主^{シュ}の^ノ長^{チヤウ}と^シなり^テ
有名^{メイナキ}なる^ル英^イ吉^ギ利^リの^ノ船^{フネ}長^{チヤウ}ダム^{ダム}ピール^{ピール}名^ナと^シあ^リる^ル人^トと^シあ^リる^ル人^ト
と^シあ^リる^ル所^トなり^テ南^{ナン}海^{カイ}に^シ旅^{リョ}行^{コウ}し^テ

ひるが此船長と諍隙ありて千七百五年のころありし當時居民も
あつたし智利シリ南采利堅南采利堅の後も王ユアンハルナンデス
の地は四年四月の間無聊惨然空しく止り居たりしが千七百
九年甲比丹オーデス、ロゲル名人、世界周流の機は會て再び船中に
救ひ乗せし二年と経て英吉利に歸ることを得たりセルキルク
己が患難を經たりし事と書記ソノコロナタカカリシ當時有名の著述家ダニール、
フリー人名と云人よ託りてこれと熟閱し鏤行せんことを乞はりダニール
此書を得て之とロマンの資を取てオモムキヲカヘ翻按し土地と阿里那格

南采利堅南采利堅の海クナ口カライなる割來弁島割來弁島に難民と魯敏遜と名づけ
暴風覆船に依り其地は漂到せしめ其留在る年を延て二
十八年とて其年紀と千六百五十年時とせりこれより
魯敏遜のロマン多く世は行りしロエツセアエといふ人殊に此書
と後生の為は實用あるよし童蒙と訓へ導きて自ら励み
自ら勤め自ら警戒めり家務人事と通知せしめ事物は接て
苟且も適宜の生産と營み神を敬ひ人と親み諸般の事
業は智巧と研磨し上下相通ぐる生々の至大ある恩恵は知

るがど^{スミ}終る童蒙と長育も良則と^{ミダツル}なり^{トナ}び^{トナ}り^{トナ}稱へ^{トナ}る
然きども其文体及び脚色甚ど古色^{フルビ}なり^{トナ}バウエーセルと云人
此書と省略^{ツクメス}刪正^{ツクメス}して^{ツクメス}デスサウ^{ツクメス}の^{ツクメス}教書中^{ツクメス}は加へんとせり
カムペ^{ツクメス}と^{ツクメス}人^{ツクメス}も同時^{ツクメス}は同ト^{ツクメス}企^{ツクメス}あり^{ツクメス}り^{ツクメス}ウエーセル^{ツクメス}と^{ツクメス}イ
プシフ^{ツクメス} 独逸国 地名 ^{ツクメス}カムペ^{ツクメス}ハムビユルグ^{ツクメス} 同上 地名 ^{ツクメス}鏤^{ツクメス}行^{ツクメス}し^{ツクメス}る
ダカムペ^{ツクメス}の^{ツクメス}書^{ツクメス}ハ^{ツクメス}話説^{ツクメス}の^{ツクメス}体裁^{ツクメス}錯^{ツクメス}乱^{ツクメス}せ^{ツクメス}ル^{ツクメス}章^{ツクメス}句^{ツクメス}流^{ツクメス}暢^{ツクメス}なり^{ツクメス}殊^{ツクメス}り^{ツクメス}童
蒙^{ツクメス}の^{ツクメス}為^{ツクメス}人^{ツクメス}間^{ツクメス}世^{ツクメス}業^{ツクメス}の^{ツクメス}教^{ツクメス}戒^{ツクメス}多^{ツクメス}く^{ツクメス}勅^{ツクメス}植^{ツクメス}諸^{ツクメス}般^{ツクメス}の^{ツクメス}記^{ツクメス}載^{ツクメス}地^{ツクメス}理^{ツクメス}航^{ツクメス}海^{ツクメス}の^{ツクメス}
学^{ツクメス}術^{ツクメス}も^{ツクメス}至^{ツクメス}る^{ツクメス}ウエーセル^{ツクメス}が^{ツクメス}書^{ツクメス}は^{ツクメス}超^{ツクメス}越^{ツクメス}る^{ツクメス}先^{ツクメス}登^{ツクメス}と^{ツクメス}なり^{ツクメス}

至^{ツクメス}き^{ツクメス} 北上紐氏 韻府 ^{ツクメス}と^{ツクメス}り^{ツクメス}か^{ツクメス}て^{ツクメス}和^{ツクメス}蘭^{ツクメス}も^{ツクメス}之^{ツクメス}と^{ツクメス}翻^{ツクメス}刺^{ツクメス}して^{ツクメス}廣^{ツクメス}略^{ツクメス}教
本^{ツクメス}世^{ツクメス}り^{ツクメス}行^{ツクメス}れ^{ツクメス}り^{ツクメス}其^{ツクメス}廣^{ツクメス}本^{ツクメス}と^{ツクメス}り^{ツクメス}づ^{ツクメス}ば^{ツクメス}ハ^{ツクメス}先^{ツクメス}に^{ツクメス}或^{ツクメス}人^{ツクメス}の^{ツクメス}譯^{ツクメス}述^{ツクメス}あ
り^{ツクメス}る^{ツクメス}人^{ツクメス}の^{ツクメス}も^{ツクメス}知^{ツクメス}る^{ツクメス}所^{ツクメス}も^{ツクメス}今^{ツクメス}も^{ツクメス}翻^{ツクメス}せ^{ツクメス}る^{ツクメス}ハ^{ツクメス}最^{ツクメス}も^{ツクメス}省^{ツクメス}略^{ツクメス}して^{ツクメス}其
大^{ツクメス}体^{ツクメス}と^{ツクメス}拳^{ツクメス}げ^{ツクメス}児^{ツクメス}童^{ツクメス}の^{ツクメス}嬉^{ツクメス}戲^{ツクメス}は^{ツクメス}供^{ツクメス}へ^{ツクメス}に^{ツクメス}あ^{ツクメス}れ^{ツクメス}バ^{ツクメス}ク^{ツクメス}漂^{ツクメス}到^{ツクメス}せ^{ツクメス}
割^{ツクメス}來^{ツクメス}弁^{ツクメス}島^{ツクメス}の^{ツクメス}名^{ツクメス} カライジセ ^{ツクメス}い^{ツクメス}ま^{ツクメス}び^{ツクメス}其^{ツクメス}文^{ツクメス}も^{ツクメス}平^{ツクメス}坦^{ツクメス}なり^{ツクメス}事^{ツクメス}實^{ツクメス}足^{ツクメス}ら^{ツクメス}る
所^{ツクメス}あり^{ツクメス}今^{ツクメス}其^{ツクメス}章^{ツクメス}と^{ツクメス}逐^{ツクメス}ひ^{ツクメス}句^{ツクメス}と^{ツクメス}踏^{ツクメス}ま^{ツクメス}り^{ツクメス}片^{ツクメス}言^{ツクメス}隻^{ツクメス}語^{ツクメス}も^{ツクメス}私^{ツクメス}に^{ツクメス}省^{ツクメス}る^{ツクメス}ハ
加^{ツクメス}へ^{ツクメス}り^{ツクメス}務^{ツクメス}め^{ツクメス}て^{ツクメス}原^{ツクメス}書^{ツクメス}を^{ツクメス}由^{ツクメス}循^{ツクメス}し^{ツクメス}て^{ツクメス}之^{ツクメス}と^{ツクメス}翻^{ツクメス}せん^{ツクメス}と^{ツクメス}り^{ツクメス}バ^{ツクメス}我^{ツクメス}が^{ツクメス}文^{ツクメス}辭^{ツクメス}
ふ^{ツクメス}於^{ツクメス}て^{ツクメス}ハ^{ツクメス}大^{ツクメス}に^{ツクメス}語^{ツクメス}勢^{ツクメス}を^{ツクメス}失^{ツクメス}ひ^{ツクメス}行^{ツクメス}文^{ツクメス}澁^{ツクメス}滞^{ツクメス}し^{ツクメス}章^{ツクメス}句^{ツクメス}圓^{ツクメス}滑^{ツクメス}なり^{ツクメス}

トコホリ

一種名づくづのくぢの体と為きよ至る覽者幸ひよ其拙陋ツタナキ
と嗤ロラるべ一時の睡魔チブリを驅りくもくもくを

横山由清識

京郊

三条通祇屋町

出雲寺文次郎

东郊

横山町を丁目

出雲寺義次郎

